
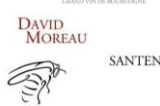
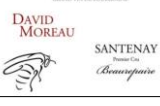

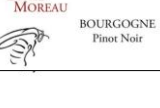













サントネのピノ・ノワールのイメージを覆すほどの力量を持つドメヌ。1984年生まれのだヴィッド・モローは、若くして叡智に輝き常に前進している。2009年に祖父の畑を受け継ぎ、ドメヌをスタート。すでにディジョンのブルゴーニュ大学でエノログ資格を取得していた。ボーカステル、ユベール・ラミー、DRCのほか、ニュージーランドでも経験を積んでいる。栽培はリュット・レゾネではあるが、「より自然な畑に戻すことが自分たちの使命」と語り、ダヴィッドなりに納得のいく栽培方法を模索中。サントネに所有する三つのブルミエ・クリュのうち二つは1964年植樹、マランジュは1943年と47年植樹の貴重な古木のみ。醸造初期には6日前後、13℃前後の低温浸漬を経て、バリックの新樽を1/3ほど使用するが、不自然に造り込まれたトーンは皆無。ヴィンテッジによりサントネの1級が、上質なシャンポール・ミュージニカモレ・サン・ドニの1級を思わせる、純粋で洗練され、きめ細かな質感と優美なニュアンスを帯びることは、この造り手では珍しくない。2014年VT以降の毎年の品質向上は特に目覚ましい。

	<p>○Bourgogne Aligoté - Les Tilles ブルゴーニュ・アリゴテ レ・ティル</p>	<p>備考</p>	<p>ステンレスタングの比率は約80%で、シュールリー熟成をしている。サントネ村の入り口に位置するこの区画は、デューン川の近くにあり、アリゴテの成熟に必要な涼しさをもたらしている。柑橘類や洋梨の香り。ミネラル感、新鮮さ、そして細やかなタンニンの骨格が絶妙に調和し、口中に美しい立体感を与える。</p>
	<p>○Santenay Blanc - Les Prarons サントネ・ブラン レ・プラロン</p>	<p>備考</p>	<p>ステンレスタングの比率は約80%で、シュールリー熟成をしている。マサルレクションの畑。</p>
	<p>○Santenay Blanc 1er Cru - Beaurepaire サントネ・ブラン・ブルミエ・クリュ ボールペール</p>	<p>備考</p>	<p>サントネ地区のほぼ中心に位置する、比較的急斜面の畑で、南向きの区画も多く、果実も良く熟す。岩がちな土壌で、排水も良い。</p>
	<p>○Meursault - Les Pellans ムルソー レ・ペラン</p>	<p>備考</p>	<p>リュウ・ディ「レ・ペラン」は「シャルム」の下に位置する斜面下部の区画で、ピュリニー・モンラシェのゴルヴェ・デ・ヴィーニュの区画と道路を挟んで隣接する。</p>
	<p>●Bourgogne Pinot Noir - Sous Montot ブルゴーニュ・ピノ・ノワール スー・モント</p>	<p>備考</p>	<p>サントネ村とブーズロン村の間に位置する区画。白い泥灰岩と鉄分豊富な硬い石灰岩の土壌で育まれ、花や赤い果実の香りが特徴的な、フレッシュで豊かな味わいを楽しめる。</p>

		●Maranges Rouge - Aux Gryphées マランジュ・ルーージュ オ・グリフェ				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1943年、1947年 位置：標高250～270m、南東向き 土壌：粘土質、砂質、石灰質粘土	醸造	発酵初期に低温(12-15℃)で5日間のマセレーション 15%を228Lの新樽、85%を228Lの旧樽で17か月間の熟成	備考	コート・ド・ボーンの中で最南の地区ではあるが、隣接するサントネと比べても、中庸なミディアムボディの赤。
		●Pommard - Les Dignonelles ポマール レ・ディゴネル				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1960年代 位置：南東向き 土壌：石灰質	醸造	ステンレスタンクで発酵 228L樽で12か月間、その後ステンレスタンクで6か月間熟成	備考	ダヴィッドの祖父母がすでに所有していた畑。納得するワインができたので2020年に初リリース。
		●Cote de Beaune Villages コート・ド・ボーン・ヴィラージュ				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1964年、1985年 位置：標高220～225m、南東向き 土壌：石灰質	醸造	15%を228L新樽、85%を228Lの旧樽で12か月間、タンクで4か月間の熟成	備考	2021VTよりダヴィッドはサントネ・ルーージュ ダル・ナクレとして瓶詰することを決めた。
		●Santenay Rouge - Dalle Nacrée サントネ・ルーージュ ダル・ナクレ				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1964年、1985年 位置：標高220～225m、南東向き 土壌：石灰質	醸造	年によるが約90%除梗 15%を228L新樽、85%を228Lの旧樽で12か月間、タンクで4か月間の熟成	備考	ダル・ナクレDalle Nacrée とはリュウ・ディではなく、石灰質土壌のタイプの示す言葉。 ディジョンからコルトンにある石灰質土壌の一種で、貝殻や化石の小片が散在する薄い層が何層も重なっている。 コート・ド・ボーン・ヴィラージュとして瓶詰していたキュヴェであるが、2021VTよりダヴィッドはサントネとして瓶詰することを決めた。
		●Santenay - Cuvée S サントネ キュヴェ・エス				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1965年 位置：標高255m、南東向き 土壌：村の中心のやせた土地	醸造	発酵初期に低温(12-15℃)で6日間のマセレーション 25%を228Lの新樽、75%を228Lの旧樽で17か月間の熟成	備考	ダヴィッドの祖父母が最初に手に入れた、レ・コルニエールと呼ばれる区画。キュヴェ名“S”は祖母のシモーヌの頭文字にちなんでいる。ミルランダージュ(結実不良)が多く、収量も多くはない畑だけれど、ダヴィッドの思い入れの強い畑の一つ。結実不良のため種の無い果実の比率が多いので、タンニンがスムーズで、果実味が前面に出ている。
		●Santenay - Les Hâtes サントネ レ・アット				
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1966-67年 位置：標高270-300m、真南向き 土壌：崩積土、泥灰土壌、酸化鉄が豊富。	醸造	発酵初期に低温(12-15℃)で6日間のマセレーション 25%を228Lの新樽、75%を228Lの旧樽で17か月間の熟成	備考	1級畑ではないが、クロ・デ・ムーシュに隣接する畑。 1967年にダヴィッドの祖父が植樹した区画。ダヴィッドがドメーンに戻って来た頃はエネルギーが強すぎて期待通りのバランス落ち着くまで5年間は下草をはやしたままにしておいた。そして2016年に初めて生産した。 ちなみに、キュヴェ名であるHateのHはリエゾンをしらないHなので、発音はレ・アット。

		● Santenay 1er Cru - Clos Rousseau サントネ・ブルミエ・クリュ クロ・ルソー			
		畑 品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1964年 位置：標高265m、南向き 土壌：酸化鉄を含んだやせた土地、石灰岩	醸造 発酵初期に低温(12-15℃)で7日間のマセレーション 30%を228Lの新樽、70%を228Lの旧樽で17か月間の熟成	備考	サントネ地区の中でも最も南に位置する、
		● Santenay 1er Cru - Beaurepaire サントネ・ブルミエ・クリュ ボールペール			
		畑 品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1990年・1991年 位置：斜面の中腹、南向き 土壌：固い泥灰地層	醸造 一部を全房仕込みでコンクリートタンクで17~23日間発酵 オーク樽で12か月間熟成後（うち新樽が2割）ブレンドし、タンクで6か月間熟成	備考	サントネ地区のほぼ中心に位置する、比較的急斜面の畑で、南向きの区画も多く、果実も良く熟す。岩がちな土壌で、排水も良い。
		● Santenay 1er Cru - Beauregard サントネ・ブルミエ・クリュ ボールガール			
		畑 品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1980年 位置：312m、南東向き 土壌：泥灰土、粘土石灰土壌	醸造 セメントタンクで2週間マセレーション 12か月間樽熟成し、ブレンド ステンレスタンクで6か月間熟成	備考	Beau=良い、regard=景色、の名の通り小高い丘の上の区画で、サントネとシャサーニュの村を一望できる。
		● Santenay 1er Cru - Clos des Mouches サントネ・ブルミエ・クリュ クロ・デ・ムーシュ			
		畑 品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1964年 位置：標高265m、南東向き 土壌：板状の石灰質基盤、わずか数センチの深さ	醸造 発酵初期に低温(12-15℃)で6日間のマセレーション 30%を228Lの新樽、70%を228Lの旧樽で17か月間の熟成	備考	畑の名前は、このエリアの花から花粉を集める数千もの蜂（Mouches à Miel = ミツバチ）に由来。表土の非常に少ない畑。ポーヌの同名の畑に比べて、評価はされていないが、表土が薄く、優れた骨格を持つワインが出来る。